色淡クシテ黒色ノ横斑アリテ、鷹腹斑ノ如シ、尾ハ深黒色ニシテ大白斑三ツアリ、脚ハ淡紅微黄、前指二ツ後指二ツ、雌ナル者ハ上背黒色、下背ハ本淡黄末淺黒色、吻ハ深黄色、額頭深黒褐色ニシテ淺青ヲ帯ビ、黒色ノ横斑アリ、肩翼黒色、喉ヨリ胸ニ至リ淡褐色、其下ヨリ尾ノウラニ至リ白色、胸ヨリ腹マデハ黒色ノ横斑アリ、尾ハ黒色ニシテ白斑甚細クシテ四箇アリ、此鳥自ラ巣ヲ營ムコト能ハズシテ、他鳥ノ巣ニ於テ卵ヲ育ス、多クハ柴鶫（ウグヒス）三番子ノ時、ソノ卵ヲ出シ去リテ、己ガ卵ヲ生ジ置ク、萬葉集ニモウグヒスノカヒコノ中ノホトヽギスト讀メリ、又大ムシクヒト云鳥アリ、形色略相似テ混ジヤスシ、一説ニ大ムシクヒハ杜鵑ノ雌ナリト云ハ非ナリ、

## 杜鵑飼養法

〔喚子鳥（上）〕杜鵑　餌飼　生ふ壹匁五分、くるみ一ツ、粉壹匁、當分はふらふよし

大きさ鳩のごとし、鷹のふにたり、あら鳥かい鳥に成がたし、子がいともに飼にくきるいなり、夏の間に巣子出る、ふらふのさしふにて飼上るなり、寒氣にはふびずる多くかふべし、ほとゝぎすの子にたる鳥あり、大むしくい、又かつはう鳥、みねかいり、此類よくにたるものなり、色あさく、口中べにのごとく赤きを、ほとゝぎすとふるべし、ゆびは何れも二本づゝ前後へふみわけてとまるなり、寒氣をいたみ、其年をこへがたし、

〔飼鳥必用（下）〕時鳥

此鳥四月何國共なく渡り來る、子は鶯の巣へ産落し、鶯是を生立也、七月末より又何國へか行方ふれず、此鳥功能あり、第一疱瘡の妙薬也、其夜酒味噌のかわりし時、此羽根をさし置ば、かわりし酒味噌直ると云、尤子供かんの虫の薬にも妙也、至て功能あるもの也、昔時鳥の子飼籠にて啼をばめづらしく覺へしが、今は所々に多く飼置也、めづらしからず、去ながら冬は至つて六ツケ敷鳥也、冬を凌ば飼よきもの也、尤正月より啼する事也、尾羽のきれいなるはなし、餌飼鮒にて玉子の黄み入七分餌也、生鱣の皮むきにしたるを細かく切、一日に二度ばかり是を飼べし、